

「東京マフィア」という映画におけるヤクザの世界分析

タパ アンジュ

0142042



マラナターキリスト教大学

文学部日本語学科

バンドン

2008

序論

「ヤクザ」は本来「三枚カルタ」という3枚のトランプのゲームの一つの用語であった。「ヤクザ」という用語は本来その「三枚カルト」というトランプのゲームに負ける人に対して言う言葉だったが、その言葉の意味が発達し、トランプのゲームに負ける人に対して言う言葉だけではなく、ギャンブルをする人、犯罪をする人あるいは社会に迷惑をかける人達に対して言う言葉になったおである。

ヤクザという組織において「親分」と「子分」という関係がある。この「親分」と「子分」という関係現にあるべき親子関係をではなく、虚構の関係である。「ヤクザ」は昔からギャンブル、売春、強制、麻薬と兵器の販売からお金を稼ぐ犯罪組織である。ヤクザの組織においては、全員が「家族」に忠実しなければならない。また、「親分」に献身しなければならない。一人の「子分」は必ず「親分」のために、自分を犠牲することを覚悟しなければならない。自分を犠牲することは習慣で「身代わり」という「親分」の代わりになるとことの実現である。

ヤクザの組織は非常に身分を重視するため、全員が自分の身分に適切な態度を取らなければならない。そのことはやくヤクザ社会の階層構造の実現であり、上位の相違、つまり「親分」と「子分」の間の相違の存在がはっきり認められる。兄弟関係も連行序列という制度に基づき定められる。

本論

ヤクザの組織においては自分より上の他の成員を呼ぶために使用される用語がある。このことは「東京マフィア」という映画に見られる。当映画では自分より地位が高い人を呼ぶ場合に後輩のヤクザ達は先輩のヤクザを、あるいは会長をいつも定められた用語で呼ぶ。

ヤクザの組織構造は「親分」と「子分」つまり、上司と部下の関係を仲心にする構造である。その組織の特徴を分析してみると、多数の組織は封建制度のような血族である。つまり、会長は「親分」（親）で、部下は「子分」（手下）である。子分においては、先輩のヤクザは「兄貴」という称号で呼ばれ、後輩のヤクザは「舎弟」という称号で呼ばれる。

「東京マフィア」においては、ヤクザ家族の第2位にある人が次の対話で見られるように「かしら」という称号で呼ばれる。

ヤブキ :かれらをおかしらぜ、ころすはしない．．かしらをうちまっ
 たんだ。

(東京マフィア：0：08：55)

「東京マフィア」にあるヤクザの組織においても下のヤクザは先輩のヤクザを呼ぶときに「兄貴」という称号で、会長を呼ぶときに「親」という称号で呼ぶ。

「東京マフィア」では組織の成員の役と身分が現実にヤクザ組織と同じである。身分による呼び方も現在日本にあるヤクザの組織についての現実を示す。例えば：「会長の補佐」は組織会長の助手、「会長」または「親分」は組織の会長、「かしら」はヤクザ家族の第2位の人、そして、最後に「かしらの補佐」はヤクザの第2位の人々の助手である。「東京マフィア」では「総長」という用語もあり、その用語は、あるヤクザ組織の会長として使われる。この「総長」という用語は多数の分家を支配する組織の最高の会長の意味を持つ。

「東京マフィア」の映画に見られる役者の態度取り方は実際のヤクザの組織においての態度の取り方と同じである。これ組織において、構成員身分に合った態度を取っていることを示している。組織においての上司と部下の間においての役割分担は封建時代の父系制度のようにきっちりと決まっている。ヤクザの組織において下位の「子分」は上位の「親分」に対して逆らっていけないという基本原則を持つ手いる。会長からの命令がある場合、たとえその命令が善事であれ悪事であれ、その命令はやらなくていけない任務または義務であり、子分のヤクザ迷わずにその命令を果さなければならないのである。このようなことはヤクザ達の「掟」の基本である。

「東京マフィア」においてヤクザの成員の忠誠心は二つあり、つまり上司への忠誠心と集団へ忠誠心である。そのやくざの成員の忠誠心は、親

分の安全のためと集団のために自分を犠牲するほどの忠誠心である。自分を犠牲することは親分の代わりという「みがわり」を実現することである。ヤクザの世界において、これは習慣になっている。

身代わりという制度はヤクザ組織において重要なものである。組織の生死に関わる事件が起こり、組織の権力者に危険が及ぶ場合、子分は当権力者の身代わり、自分が犯罪を犯した人間であると、警察所二で出頭する。

「東京マフィア」においてヤクザの成員が示す忠誠心についての場面がいくつかある、例えば：

かたき :おまえ東京マフィアだろう？ヤブキはどこか、おしえんか！

ユキ :おれを殺してやれ！

(東京マフィア：0：29：30)

上の場面はあるヤクザの成員が親分のためまたは組織の会長のため、自分の命を犠牲にすることを示している。また、下記の対話に示されるように組織への義務として自分を犠牲にすることがある：

スギヤマ :かえせ！かえせ！かえせ！

リー :つぎのとりれんらくか。英語と暗号じゃないか。どう意義だ。

(東京マフィア：0：38：59)

上記の場面は集団のために自分を犠牲にすることに覚悟を決める一員のヤクザの態度を示している。この場面においては、他の集団に奪われてしまう自分の集団の資料を守るために自分の命を捨てることを示している。

「東京マフィア」にあるヤクザのビジネスは不法のビジネスであり組織の収入の源である。例えば、下記の場面は「東京マフィア」に出ているヤクザ組織が不法な軍需品の取引をする場面である。

ユキ :腕のいいスナイパー知っているかすくない。ボスにたのまれた。

なかま :すべてこみとこれ！

ユキ :五千万円。オケ

(東京マフィア：0：57：58)

不法な軍需品の取引だけではなく、その他に「東京マフィア」に出ているヤクザ組織の収入の源になる営業がまだある。例えば、売春、ナイトクラブ麻薬販売である。その全ての行為は日本にあるヤクザ組織の実際にみられる。

結論

「東京マフィア」に出てくるヤクザ組織は実際の日本にあるヤクザ組織と同じところ見せている。巨大の犯罪組織であるヤクザ組織も体系的な組織構造を持つ。その映画においてはヤクザ組織の一員が親分や一家に対して忠誠心を持つことが見られる。組織において、組織を営むにおいて守らな

ければならない この映画においてヤクザ組織がする不法なビジネスはその組織の収入の源となっていることがわかる。